

|                      |  |
|----------------------|--|
| 重点取組名                | 不知火の面積拡大及び貯蔵技術確立   |
| 普及種担当                | 松山地方局 産業経済部 農政普及課 産地育成室 果樹係  |
| 主要な活動地域・対象農業者        | 温泉広域営農圏域並びに伊予広域営農圏域の不知火栽培農家1,708戸を対象とする。   |
| 取組結果・成果<br>＜取組みのねらい＞ | <p>1、減酸対策技術の実証と栽培講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保水性マルチにより減酸対策技術の実証を行い、土壌水分が高く推移することで、減酸、樹勢維持に効果的であることがわかった。今後減酸しにくい園地で、保水性マルチを推進する予定。</li> <li>・摘果、かん水講習会（6月）、収穫講習会（12月）、剪定講習及び保水性マルチの実証結果の報告（2月）を行った。</li> </ul> <p>2、適正予措・貯蔵技術の実証と貯蔵講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーリング処理（収穫後、予措後）及び貯蔵方法（サンテ、ポリ個装、裸果）の違いが果実品質に及ぼす影響を調査し、収穫後のカラーリング処理が果皮障害（やけ果）の発生を抑えることがわかった。また、サンテを被覆した場合、サンテのまま予措、貯蔵することで、省力化と腐敗防止につながるということがわかった。平成18年5月の講習会にて生産者に報告し、貯蔵技術の確立を図る予定。</li> <li>・予措・貯蔵講習会（12月）を開催し、予措の徹底による腐敗防止に努めた。</li> </ul> <p>3、栽培面積の増加（275 283ha）<br/>       単収量の増加（874 927kg/10a）<br/>       特選・1級品率の向上（39 55%）</p> |
| 連携機関、協議会等            | 愛媛のかんきつ21推進協議会   |
| 取組の特徴や取組に際しての工夫      | <p>1、愛媛のかんきつ21推進協議会と連携するとともに、みかん産地再編緊急対策事業等を活用し、伊予柑等から不知火への転換を図った。</p> <p>2、試験研究機関、JAと連携し、実証圃を設置し、減酸対策技術、適正予措・貯蔵技術の確立を図った。また、実証結果をもとに、栽培指針の検討を行った。</p> <p>3、JAと連携し、1月に光センサー選果機で全園一斉分析を実施し、収穫時期、出荷時期等を調整した。また、光センサー選果機を活用し厳選、均質出荷を行った。</p>  |
| 【参考】                 |  |